

課題名	128 交雑種の肥育技術	分類	②															
	交雑種去勢牛 (BD) の肥育特性																	
試験研究年次	1~2年 (完了)																	
I 目的 交雑種去勢牛 (BD) の肥育特性について明らかにし、交雑種去勢牛肥育技術の確立に役立てる。																		
II 試験方法																		
1 供試牛：交雑種去勢牛 (BD：黒毛和種♂×ホルスタイン種♀) 6頭																		
2 試験期間：平成元年 4月 3日～平成 2年 5月28日																		
3 試験方法と区分																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>頭数 (頭)</th> <th>開始時体重 (kg)</th> <th>開始時月齢 (月)</th> <th>出荷時月齢 (月)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>3</td> <td>293.0</td> <td>6.7</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>3</td> <td>298.7</td> <td>6.7</td> <td>21</td> </tr> </tbody> </table>				区分	頭数 (頭)	開始時体重 (kg)	開始時月齢 (月)	出荷時月齢 (月)	A	3	293.0	6.7	18	B	3	298.7	6.7	21
区分	頭数 (頭)	開始時体重 (kg)	開始時月齢 (月)	出荷時月齢 (月)														
A	3	293.0	6.7	18														
B	3	298.7	6.7	21														
4 飼養管理：全期間繋留方式により、濃厚飼料と粗飼料を分離不断給餌																		
5 供試飼料：(1)粗飼料：稲ワラ (2)濃厚飼料：市販配合飼料 (TDN71.8%, DCP 8.9%), 13カ月齢から、大麦圧パン (皮むき) を混合給与 (大麦圧パン：濃厚飼料 = 2: 8, 重量比)																		
6 調査項目：(1) 増体 (2) 飼料摂取量 (3) 飼料要求率 (4) 枝肉成績																		
III 主要成果の概要																		
交雑種去勢牛は (BD)、濃厚飼料と粗飼料を分離不断給餌した場合、増体成績は黒毛和種去勢牛と比べて良好であり、脂肪交雑等級は、1~2であった。																		
1 1日増体量は、18カ月齢出荷と21カ月齢出荷では差がなく、約 0.9kgであった。																		
2 1kg増体に必要な TDN量は 5.2~ 5.6kgで、ホルスタイン種去勢牛に比べて良好であった。																		
3 歩留等級は、18カ月齢出荷、21カ月齢出荷いずれも B等級であった。																		
4 肉質等級は、脂肪交雑等級が 3~ 5等級 (脂肪交雑1~2) であったが、肉の締まり及びきめ等級が劣ったため、肉質等級が下位等級に格落ちしたものが多かった。																		
IV 主要成果の具体的データ																		
第1表 増体成績																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>出荷時月齢 (月)</th> <th>出荷時体重 (kg)</th> <th>日増体量 (kg)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>18</td> <td>603.3</td> <td>0.94</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>21</td> <td>679.3</td> <td>0.91</td> </tr> </tbody> </table>				区分	出荷時月齢 (月)	出荷時体重 (kg)	日増体量 (kg)	A	18	603.3	0.94	B	21	679.3	0.91			
区分	出荷時月齢 (月)	出荷時体重 (kg)	日増体量 (kg)															
A	18	603.3	0.94															
B	21	679.3	0.91															
注) 黒毛和種去勢牛の日増体量 (昭和63年 畜産物生産費調査報告) : 0.65kg / 日																		

第2表 飼料摂取量

(kg)

区分	濃厚飼料	粗飼料	乾物摂取量	TDN摂取量	TDN摂取量/日	1kg増体に必要としたTDN
A	2,401	282	2,358	1,743	5.2	5.2
B	3,069	418	3,065	2,133	5.1	5.6

注) ホルスタイン種去勢牛の1kg増体に必要なTDN量(昭和63年畜産物生産費調査報告): 6.11kg

第3表 体重と1日増体量の推移

(kg)

区分	月齢	開始時	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
A	体重	287	313	348	387	431	443	474	496	523	552	576	603			
	DG		0.9	1.3	0.9	1.2	0.4	1.0	0.8	1.0	1.0	0.9	1.0			
B	体重	299	319	361	405	440	457	496	509	532	556	577	601	625	660	679
	DG		0.7	1.5	1.1	0.8	0.6	1.4	0.5	0.8	0.8	0.8	0.9	0.9	1.3	0.7

注) DG: 4週毎の1日増体量

第4表 枝肉成績

項目	区分 (牛番号)	A				B			
		1	2	3	平均	4	5	6	平均
枝肉重量 (Kg)		361.3	323.9	329.8	338.3	414.6	379.7	392.8	395.7
枝肉歩留 (%)		59.7	58.0	58.1	58.6	62.3	59.4	61.0	60.9
ロース芯面積 (cm <sup>2</sup> )		38	38	47	41.0	44	42	47	44.3
バラの厚さ (cm)		6.3	4.6	5.5	5.5	6.2	6.5	5.8	6.2
皮下脂肪の厚さ (cm)		2.0	1.8	2.6	2.1	2.6	2.5	3.5	2.9
歩留等級		B	B	B		B	B	B	
脂肪交雑等級		3	4	4	3.6	3	5	3	3.7
肉の色沢等級		3	4	3	3.3	3	5	3	3.7
肉の締まり・きめ等級		2	4	3	3.0	2	4	2	2.6
脂肪の色沢・質等級		4	4	4	4.0	4	4	4	4.0

注) ①枝肉歩留: 対と前体重比 ②脂肪交雑, 肉の色沢, 肉の締まり・きめ, 及び脂肪の色沢・質の等級: 1「劣る」~5「かなり良い」

V 成果の評価と取扱上の留意点

交雑種去勢牛肥育の指導資料として利用する。

VI 今後の研究上の問題点

- 1 肉締まり改善技術の検討
- 2 肉質を重視した飼料給与技術の検討

VII 資料名